

SNW 北九州高専学生の九電玄海原子力発電所見学会詳細報告

令和元年 12 月 19 日

(世話役) 金氏 顯

kaneuji@amber.plala.or.jp

1. 日時：令和元年 11 月 23 日(土)09:00～19:20
2. 見学場所：佐賀県玄海町 九州電力玄海原子力発電所
3. 高専側世話役:宮内真人、生産デザイン工学科教授、miyauchi@kct.ac.jp
4. 高専から参加:先生 2 名 (宮内先生と宇部高専の江原史朗先生)、学生 27 名、
5. 同行シニア：金氏 顯 (元三菱重工)
6. 九州電力担当：北九州支社広報 G 久保正昭課長 Masaaki_Kubo@kyuden.co.jp
7. 行程 (バスで移動)
09:00～ 北九州工業高等専門学校発(車中で金氏より「原子力発電の基礎と安全」説明)
11:40～12:40 玄海海上温泉パレア(昼食)
13:15～16:15 玄海エネルギーパーク見学、発電所入構手続き、発電所構内バス見学(発電所設備、安全対策(代替緊急時対策所は下車見学))、原子力訓練センター見学、質疑応答
19:20 北九州工業高等専門学校 着



案内嬢の渡邊さん、笑顔が素敵と学生に大人気



構内は撮影禁止、記念集合写真

8. 経費等の分担

- ・バス：九電殿の広報活動の一環として大型バス提供。
- ・交通傷害保険 (50 円/人)、昼食 (1050 円/人)：SNW (西郷会計幹事から学会へ申請済)

9. 事後アンケート&感想:集計結果(学生 27 名、先生 2 名)、理由や内容は主なもののみ。

(1) 見学の内容は満足のいくものでしたか? その理由は?

- ・ とても満足した(17) ・ ある程度満足した(12) ・ やや不満だ(0) ・ 大いに不満だ(0)

理由

- ・ 原発内の普段は見ることのできない施設を見ることが出来たから。
- ・ 一般報道では公開されない情報を多く知ることが出来たから[「原発事故成功例、原発管理、点検訓練」]
- ・ 原発の仕組みをより詳しく知ることが出来たから。
- ・ 説明するときに内容をかみ砕いて話してくれたので、とても分かり易かったから。

(2) 新しい知識や情報が得られましたか?

- ・ 沢山得られた(18) ・ 或る程度得られた(11) ・ 得られなかった(0)

内容

- ・ 原発の原爆の違い、原発の種類(加圧水型、沸騰水型)
- ・ 原子炉の仕組み、安全管理、非常時に備えた設備や訓練。。
- ・ 事故に対する対策が非常によく考えられていることが分かった。
- ・ 原子力の発電方法、原子力発電所の規模感を知ることが出来た。
- ・ 原子燃料の使用年数、災害対策の情報源、廃炉の理由、原子炉設置方法、温暖化と CO2 の非相関性等。

(3) 共感・感動・見応えがありましたか?

- ・ 大変あった(14) ・ 或る程度あった(11) ・ あまりなかった(3) ・ ほとんどなかった(1)

内容

- ・ 原子炉の大きさと、燃料の小ささ。
- ・ 燃料ペレットの大きさ、燃料棒・制御棒の大きさ、地盤の様子は非常に新鮮だった。

(4) 印象に残ったことは何ですか?

- ・ 思ったより発電所が大きかったこと。
- ・ 代替指令室の機器の充実具合と備蓄の多さ。
- ・ 実際のウランを見たこと。燃料ペレットが想像したものよりも小さかったこと。
- ・ 実物大の原子炉模型、燃料集合体。
- ・ 一つの燃料ペレットで一家族の半年分の電気を供給、非常用外部電源の分散度合いの細かさ、重機が存在
- ・ 渡辺さん(案内嬢)の笑顔。
- ・ 運転員が一人前になるのに 10 年かかり、運転員は 3 年ごとに研修という厳しさ。
- ・ 1, 2 号機を廃炉にする理由が、実際に見学をすることでよりよく分かった。

(5) 日本のエネルギー政策では原子力発電を基幹電力(2030 年に発電電力量の 20~22%)とし、省エネ・再エネの拡大や火力の高効率化により可能な限り削減していくとしています。あなたの認識は次のどれですか?(複数回答も可)

- ① (21) 電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。
- ② (7) 発電の必要性は分かっていたので、読んだ前後で認識は変わらなかった。
- ③ (1) 発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。

④ (O) 発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。

(6) 感想などを自由に書いてください。

- ・原子力発電は災害が発生したら危険だと思っていたが、対策をしっかりしたうえでの再稼動であるため、もっと再稼動を増やしても良いのではないかと思った。
- ・昭和生まれの方は原爆や福島事故のショックが強く残っていて原子力を拒絶という方も少なくないと思うが、僕ら平成生まれの 2, 30 代が権力を持つような時代になった頃には原子力の怖さ、良さの両方を理解している世代と思うので、次第に受け入れられていくのではないかと思う。
- ・とにかく、安全対策を強化して、人々の理解を得ようと努力している印象が強かった。
- ・原子力についての理解が深まって良かった、もう少し発電所内部の見学があればよかった。
- ・原子力発電に対する知識が乏しかったが、少し増えたと思います。そして今までより原発を身近なものとして感じる事が出来ました。
- ・自分は以前から原子力発電の必要性を強く認識していたので、今回の見学でより一層必要性への認識が強くなった。今後の地震や津波などへの対策を聞いて、災害による危険性はかなり低いと感じた。世間の人々は原子力発電に過剰なまでの悪印象を抱いており、世論の原発に対する風当たりはかなり強い。原子力発電は絶対に人用なので、世間の人々には正しい知識を持ってもらいたいと感じた。
- ・来年度も続けられると良いな。
- ・人類は火を乗り越えてきた。我々が未来への進む新たな灯こそが原子力だ、人類がこれからもあり続けることを望むなら、原子力は乗り越えていかなければならないと思う。
- ・現状の作業工程について、安全管理について具体的に知ることが出来て良かった。これからの情報を見て、社会と原子力の関係についてもっと深く考えてみたいと思う。
- ・このような場を設けていただいて有難うございました。多くのことを学ぶことが出来て非常に有意義でした。

9. まとめ

この日のバス見学会は車中講義時も見学中も皆居眠りもせず、非常に熱心に見て聞いていた。帰途車中でアンケート書いてもらったが、原子力発電所の規模、構造や仕組み、災害への対策などが良く分かった、原子力発電の必要性を強く認識した、等々、見学会が原子力理解に非常に有効であることを改めて実証した。

12月26日の対話会が非常に楽しみだ。なお、同行された宇部高専の江原先生も初めて原子力発電所を見学、対話会にも参加するとのこと。宇部高専での対話会開催の可能性あり。

以上